

## 友安 一成

Kazunari Tomoyasu

油絵

助教授

- 1972 武蔵野美術大学 卒業
- 1992 広島画家 100 人展  
個展 (三越画廊)
- 1995 第 9 回日洋展 奨励賞  
第 27 回日展 (-'99)
- 1997 第 11 回日洋展 会員賞
- 1999 第 13 回日洋展 会員賞
- 2000 「現代の版画 広島・今」展  
「広島 2000 -境界と交流-」展
- 2001 第 42 回日本版画会 奨励賞
- 2002 広島現代版画展 (メキシコ、グアナファト州立美術館)  
日本版画会選抜展 (今治市河野美術館)  
広島画家 110 人展  
第 43 回日本版画会 東京都知事賞
- 2003 第 44 回日本版画会 会友賞
- 2004 個展「天上の花」
- 2005 トリエンナーレ東広島 -郷土・招待作家展-
- 現在 日洋会 委員、日本版画会 会員、大学版画学会 会員
- 1994 年 4 月着任

須く芸術表現の目的とするところは、生きることと同じであるように、なにかしらでも世界の全体像に触れようと試み努力することである。しかし我々の作り出した近代の芸術表現は、行き過ぎた人間中心主義的な表象化であることは自明のことである。実はそうした近代の方法論と価値観とをしっかりと抱え込み近代の尻尾の先で近代の超克と現代性とを唱えているだけかもしれない。私は正直な位置に立ちたいと思う。いま絵画から出発しながらもさらに版による表現がもつ構造の広がりには大きな可能性を感じる。版表現全体の持つ大きな構造であり空間のことである。版表現の手わざを超えた跳躍力を最大の特徴とするいわば開かれてある豊かな温床のような場のことだ。私自身の中の近代的自我について否定すべき意味については体験的に理解している。その意味で今生きて表現を考えようとするとき私は謙虚な濾過装置のようでありたいと考えている。この版による表現がもつ構造の中で何ものか世界に出会いながら、なお装置を通過し生まれ出てくるものがあるとしたら、もしかしたらそれが少しばかり私の表現と言えるものかもしれない。

## 絵画から版表現へ



《立夏》  
2005  
銅版画・雁皮刷り  
H2000 × W1000cm